



東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

〇考える子 〇助け合う子 〇やりぬく子
〇じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和3年10月29日発行 第9号

『三つの『鯛』の視点を大切に』

岩内東小学校長 齊藤 信之

ストーブの恋しい季節となりました。

緊急事態宣言が明けるまで延期としていた5年生の宿泊学習は、7～8日、14～15日の2週に分け、学級ごとに無事に終わることができました。初めて経験する子が多かったスケート、買い物から調理、片づけまでを班の仲間と協力してやり遂げたカレーライスづくり、ダチョウの圧に押しされ気味になりながらの餌やりやウサギ、ヒヨコ、ヤギなどとのふれあい等、楽しさの中にも実践的な学びのある2日間となりました。

同じく形を変えて行った学習発表会も、27日の5年生をもって全学年が終了しました。延べ4日間に分けての開催でしたので、何度も学校に足を運んでいただいた方もいらっしゃると思います。ご苦勞をおかけしましたが、久しぶりに子どもたちが笑顔で嬉々として活躍する姿をご覧いただくことができたことと思います。これまでのスタイルに固執せず、子どもたちのがんばる姿をご覧いただく機会を作り出すことを第一に考え、実現できたことを嬉しく思います。

児童理解の話題の中で、「子どもの心には三つの『鯛』が住んでいる」と聞いたことがあります。「褒められたい」＝よくできたね。「認められたい」＝よく頑張ったね。「頼りにされたい」＝ありがとう、助かったよ。すこぶる納得できる話で、この三つの『鯛』の視点をもって接することで、子どもとの関係や学級集団が柔らかく満ち足りたものになることを何度も経験しています。子どもだけではなく大人も同じかもしれません。心の中では誰もがほめられたい、認められたい、頼りにされたいと思っています。

過日行った学校評価では、自分の良いところを認める「自尊感情」や友だちの良いところを認める「思いやりの心」を持っている、友達と仲良くし、楽しく学校生活を送っている、進んであいさつしたり、場に応じた言葉づかいで話したりすることができる等、道徳や生活指導に関する項目での高評価が目立ちました。「あい（愛）ある学校＝認めあい、支えあい、高めあい」を重点目標に掲げ、学校をあげて取組を進めてきたことが徐々に子どもの姿として現れ始めているのだとしたら、こんな嬉しいことはありません。

これからも「三つの『鯛』」の視点を大切に、互いを知ることから関係性を築きあげ、温かい学校づくりに励み続けていきたいと思っています。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い致します。